

6 令和4年度 県立三田西陵高等学校 学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

1 学校経営のテーマ	2 本年度の重点目標
【教育方針】 本校は、校訓「自主・創造・飛翔」のもと、教育活動全般を通じて、生徒一人ひとりの個性と能力を伸張し、予測することが困難な変化の激しい時代において、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる、「夢の実現力」に富んだ人材の育成を目指している。 「夢の実現力」のために育成していく力 「自主」 自分の考えをしっかりと持ち、他者の意見を尊重しながらも自らが下した決定を行動に移していく力 「創造」 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決法でもって探求していく力 「飛翔」 自分の目指す方向を見失わず、仲間と一緒に知恵を出し合い課題を解決していく力 子どもみらい類型を有する本校は、特色ある学校設定科目の設定や関係教育機関・地域と連携した校内・校外の実習を充実させた学びにより、将来、保育士や幼稚園・小学校教諭など「子どもの未来」に関わる職業に貢献できる人材の育成を目指している。 このような人づくりを実現するために、以下の教育方針を定める。 (1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。 (2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。 (3) 保護者・地域等との連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。 (4) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。	(1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。 ア 生徒が夢や希望を持ち、将来の目標を適正に定められるよう、体系的・系統的なキャリア教育及び進路指導のさらなる充実を図る。 イ 生徒の基本的な生活習慣、基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を図る。 ウ 将来の進路目標を実現し、社会で活躍し貢献できる人づくりを進めるため、生きて働く知識・技能の確実な習得に加え、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を育成し、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力を育成する。 (2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。 ア 体験活動を通して自ら学び、考え、体得する教育に力を入れ、時代を越えて変わらない倫理観や公共心の育成など心の教育の充実を図るとともに豊かな人間性等を涵養する。 イ 校内の緑化や花いっぱい運動、美化に励む伝統を継承し、本校の恵まれた学習環境の中で、生徒の豊かな情操を養う。 ウ 生命の尊さや、他を思いやる心を育て、防災・安全教育を充実させる。 (3) 保護者・地域等との連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。 ア 生徒の地域社会の活動への参加及び地域住民の本校教育活動への参加等、開かれた学校づくりを積極的に進め、家庭・地域社会と互いに連携しながら、いきいきとした魅力ある教育活動を展開する。 イ 自主自律の精神に富む人づくりに努め、明朗・闊達な精神と文化を尊ぶ校風の継承と発展を図るとともに、時代の進展や社会環境の変化に対応した学校づくりに取り組む。 (4) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。 ア 本校の教育目標の達成をめざし、各教職員が学校組織の一員として一人ひとりの専門性、個性を生かしながら、緊密に連携・協力してそれぞれの課題に取り組む。 イ 高大連携、高大接続改革、新学習指導要領等、教育環境の変化に対応し、生徒たちの夢をかなえる教育の充実を目指し、学校単位をはじめ、個々の教員においても積極的な研修の取組を推進するとともに、職員間で共有化を図る。

3 総合的な自己評価及び次年度に向けた改善点

(1) 授業について、6割弱の生徒がICT機器を効果的に活用した授業を受けることができていると回答している。今年度よりBYODが始まっており、次年度以降より効果的な活用を図りながら生徒の学びの意欲を引き出す授業を推進する。また8割弱の生徒が授業内容に興味をわき、集中して授業を受けることができている、約75%の生徒がだいたいの科目において授業内容が理解できていると回答している。全ての生徒が夢の実現をするために必要な「確かな学力」の育成をめざし、さらに授業改善に取り組む。 (2) 「総合的な探究の時間」を軸にして、進路講演会やホームルール等でキャリア教育に取り組んだ結果、約7割の生徒が自分の進路を考える上で役立っていると回答しているが、半数近くの生徒が、進路目標達成に向けてスタディーサプリなどのツールを十分に活用できていないと回答していることが課題である。生徒が主体的に3年間をみとおしたキャリア形成を図れるよう、組織的・体系的なキャリア教育を進めていくことが必要である。 (3) 子どもみらい類型の取組について、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、「県立高校特色づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～」 「高校生ふるさと貢献・活性化事業」等で予定していた内容の中止や変更もあったが、連携幼稚園・保育園、地域自治会等の支援・協力を得ながら、教育現場体験、園児や地域の方々との交流、各種ボランティア活動への参加等をとおして、生徒の主体的な学びを深めることができた。また、1年生、部活動部員及び環境委員が中心となり、花いっぱい運動や地域ボランティア清掃に参加し、地域や社会への意識を涵養するきっかけとなった。 (4) 高大連携について、校内プロジェクトチームを立ち上げ、生徒の学びをより深め、次年度からより専門的な見地から探究活動を行えるよう準備を進めた。具体的には、次年度の2年生の「総合的な探究の時間」において、分野別に10以上の講座を開講し、本校教員がファシリテーターとなり、大学教員より指導・助言をいただきながらより深く課題研究を実施する。
--

4 学校関係者評価総括

(1) 「県立高校特色づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～」 「高校生ふるさと貢献・活性化事業」等の県事業を活用した取組や子どもみらい類型の取組について、生徒の主体的な学びを深めており、本校の学校経営のテーマ及び重点目標達成に向けて各部・各学年がしっかりと連携を図りながら、バランス良く学校経営に取り組んでいると評価をいただいた。また、今後さらに地域との連携を深めた教育活動を推進してもらいたいとの意見をいただいた。 (2)本年度の取組を高く評価していただいたが、次年度に向けて様々な視点より意見等もいただいた。これらを今後の学校運営に活かしていく。

5 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成	①自ら「ヒューマンライツ」を啓発し、自他を高め合う人材の育成を図る。国際感覚を身に着けるべく、グローバルな視点に立った人権教育を進める。多様な社会の価値観やあり方、また共同の意識を理解する人権教育を促進する。 【総務部】	①人権講演会の有効な開催であったか。各人の意識の向上変革がみられたか。などをアンケートにより評価する。 【総務部】	B	【総務部】 ・生徒教職員とも80パーセント以上が人権HRは人権意識を高める上で役立っていると回答、現状でもよい評価である。今後は講演を含め実施回数を増やしたい。
	②研究授業（全員）を実施。新カリキュラムでの教育課程の改善・見直し（年4回）を図る。観点別評価の研修会（年3回）を行い、各教科での指導方法を改善する。【教務部】	②研究授業、教育課程の改善・見直し、観点別評価研修会の内容や実施回数などにより評価する。【教務部】	A	【教務部】 ・教職員全員が授業のユニバーサル化またはタブレット活用をテーマに研究授業を実施。 ・教育課程委員会で教育課程の見直しを5回実施。 ・成績会議や教育課程委員会で各教科から観点別評価についての工夫や現状を報告、3回実施。
	③周囲との関わり合いの中で、将来の社会生活に必要な規範意識を身につける。自転車安全講演会・SNS講演会・薬物乱用防止講演会など勉強としての学力ではなく、社会の一員として生活する上での確かな「学力」を身につける講演会年3回実施する。【生徒指導部】	③実施回数やアンケートなどにより評価する。 【生徒指導部】	A	【生徒指導部】 ・各種講演会を予定通り実施し、社会の一員としての自覚を身に付けさせることができた。 ・改善点として、コロナ対策におけるリモート機能を用いた講演ではなく、学年単位など実際に生の講演を聴く運用面での改善が必要である。
	④基本的な知識・技能・学力を身につける。補習・資格取得・外部と連携した事業・校内での諸活動を充実させ、自分の意志で参加し、自分が達成したという自信を持たせる。 【進路指導部】	④諸活動を精選し、内容は生徒にとって充実したものであったか。生徒自身が自分から加わり達成したという満足感を持ったか。達成できていない生徒に対して、どのような指導が考えられたのか。を学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】	A	【進路指導部】 ・学年、教科等で生徒の進路希望に合わせた、大変きめ細かな内容の補習が実施された。参加者の意欲も高く、良い効果が出た。 ・改善点は、学校全体での取り組みとして、組織的な計画が必要。
	⑤確かな学力を習得するためにも、心身が健全であることが肝要であることを自覚させ、充実した学校生活を過ごせるよう支援していく。 【保健部】	⑤学校評価アンケートなどにより評価する。 （目標：70%以上）【保健部】	B	【保健部】 ・家庭において、生活習慣が確立できているかという問に対し、生徒は約50%，保護者は約46%という数でした。健全な学校生活を過ごすことが出来るように、啓発活動等を通じてサポートしていく必要がある。
	⑥学校設定教科「教育」・学校設定科目「教育入門Ⅱ」「教育体験」、総合的な探究の時間「教職の探究」を設置し、外部講師による教育講話、創作活動、教育現場体験（実習）など授業内容の充実を図る。【教育推進部】	⑥子どもに関わる進路（教育系など）への希望者数により評価する。（目標：60%以上）【教育推進部】	B	【教育推進部】 ・1年の教職の探究は1学期のみの実施となった ・カリキュラムの変更に伴い、評価も含めた計画を必要とする。
	⑦平日1時間、土日2時間以上の学習時間を確保し、学力の向上を図る。小テスト及び週末課題を実施する。【第1学年】	⑦小テストの合格率（目標：80%以上）及び週末課題の提出率（目標：100%以上）で評価する。【第1学年】	B	【第1学年】 英単語小テスト 平均合格率 69.7% 数学小テスト 平均点 5.6 点（10 点満点） 週末課題 提出率 95%以上 ・平日1日1時間以上学習できるよう、課題、小テストを計画し、実施した。12月の生徒アンケートの結果 42%の生徒しか達成できていなかった。引き続き課題、小テストの計画をし、日々の学習の積み重ねの重要性を理解させる。

	⑧授業に対して主体的に取り組めるよう、予習→授業→復習のサイクルを意識して成立させる。毎週の小テスト、週末課題に誠実に取り組む。火曜講座・長期休暇中の補習など、実施について生徒への周知徹底を図り、積極的に活用させる。【第2学年】 ⑨毎日の授業に真剣に取り組むことで、学力の向上を図る。補習に積極的に参加し、進路実現に向けて努力を重ねる。【第3学年】	⑧授業アンケートで評価する。（目標：「積極的な参加」80%以上）小テストでの合格率などで評価する。補習後のアンケートで評価する。（目標：満足度80%以上）【第2学年】 ⑨生徒アンケートにより評価する。（目標：「授業を大切に受けている」80%以上）補習への参加率向上により評価する。【第3学年】	B B	【第2学年】 ・授業アンケートにおいて、英数国いずれの教科においても「積極的に授業に取り組んでいる」と答えた生徒が85%を超えており、補習の満足度も大変高い。ただ小テストの合格率は実施回によってバラつきがあり、今後も継続した指導が必要である。 【第3学年】 ・授業アンケートにおいて、8割近くの生徒が「積極的に授業に取り組んでいる」と答えた。補習への参加率は低めではあったが、部活動を引退した夏からは向上し、進路実現に向け努力する生徒が大幅に増えた。
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育成	①多様な災害とその被害、対策について主体的に学び、考える人材の育成を図る。【総務部】 ②周囲との関わり合いの中で、将来の社会生活に必要な規範意識を身につける。生徒会を中心に、昨年度見直しを行った校則について、生徒目線から再度協議し、時代に応じた校則を他人との協同の中で作り上げる。同時に、ルールとして校則を作るのではなく、なぜそのルールが必要なのかという観点に立って、多様な観点を尊重しながら作り上げる機会を設ける。【生徒指導部】 ③進路実現は各個人の「生き方の問題」とであるという視点で、自分の将来像を描かせ可能性をさぐる。自己理解を深めるため、「様々な経験」「様々な進路情報」「様々な可能性」を図れる指導を行う。【進路指導部】 ④コロナ対策を継続的に行うとともに、日頃の学校生活においても、熱中症対策や体調管理に留意するよう啓発活動を行う。【保健部】 ⑤教育現場体験などを通して対人関係（人間力）を構築する環境を設定する。【教育推進部】	①自然環境、社会環境に目を向けつつ活動できたか。生徒参画によることで各人および集団が命を守り、また防災意識の向上が図れたか。などをアンケートにより評価する。【総務部】 ②実施回数やアンケートなどにより評価する。【生徒指導部】 ③生徒との対話（面談など）がよくできているか。外部の方々による講演など、学校関係にとらわれない広い分野からの知識・関心が得られるよう取り組めたか。などを実施回数により評価する。【進路指導部】 ④学校評価アンケートなどにより評価する。（目標：70%以上）【保健部】 ⑤連携幼稚園・保育園の園長や教諭、保育士からの講評・感想及び地域活動協議会からの講評・感想により評価する。【教育推進部】	B B A A A	【総務部】 ・基本的な自身による出火想定避難訓練を実施、消防署の来校により学年別に講話。 ・気象台職員による異常気象等に関する知識を含め、視点を変えて災害について考える機会を持たせた。より主体的に対話考える場を設定したい。生徒アンケートは高評価。 【生徒指導部】 ・校則の基本的な考え方を見直すことはできているが、時代の流れに応じて生徒主体の目線をまだ取り入れられてはいない。 ・改善点として、生徒会を中心として内容を精査し、積極的に生徒の意見を取り入れていく必要がある。 【進路指導部】 ・生徒の進路希望に応じた個人面談が良く実施できた。 ・情報を該当生徒に直接伝えたり、本人の考えを丁寧に聞くことができ、効果的だった。 ・改善点は、さらに組織的な取り組みとなるよう計画すること、生徒の進路希望の情報を学年、進路指導部、教科等で共有できるようにしたい。 【保健部】 ・コロナ感染予防対策については、十分であるという評価を保護者、生徒共に約80%得ている。加えて、予防対策の為に具体的に行動することが出来たとする生徒は約93%であり、現状の対策や注意喚起を継続する。 【教育推進部】 ・受入先施設からは好評を得た。次年度以降も継続する。

	⑥特別編成時間割の期間を利用し、漢字コンテスト、数学コンテスト、ドッジボール大会などを開催する。生徒の活躍する場所を提供し、自己肯定感を高め、高校生活の充実を図る。 【第1学年】 ⑦先住民族や自然環境など、北海道独自の文化について学び、多くの体験を通して生徒の目を多方面に向けさせる機会とする。【第2学年】 ⑧人権 HR などを通して、他者に対して思いやりを持って接する態度を育成する。 学校行事に全力で取り組むことで学校生活を充実させるとともに、自他に肯定的な態度を養う。【第3学年】	⑥生徒アンケートにより評価する。（目標：「学校生活は充実している」85%以上）【第1学年】 ⑦人権 HR 実施後のアンケートで、生徒の学びを確認することにより評価する。【第2学年】 ⑧人権 HR 実施後のアンケートや感想で、生徒の思いを確認することにより評価する。 生徒アンケートにおいて評価する。（目標：「学校生活は充実している」85%以上）【第3学年】	A A A	【第1学年】 ・特別編成期間中に進路講演会、球技大会、本の帯作成、有志発表会など多くの生徒が活躍できる機会を提供できた。また、すべての行事を生徒主体で活動できた。 【第2学年】 ・修学旅行実施前にアイヌ民族の文化と歴史について、人権HRで学ぶ機会を持った。修学旅行では「北海道開拓の村」や「ウポポイ」を見学し、いずれも生徒には好評であった。 【第3学年】 ・人権HRでは女性の権利について学習し、多くの生徒が他者に対する思いやりの必要性や、人権意識が高まったと答えた。また、ほぼコロナ前と同じ規模で開催された学校行事には、どのクラスも全力で取り組み、生徒の生き生きとした表情がとても印象的であった。
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(3) 保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりの推進	①継続的な社会づくりへの寄与。（社会への協働参画意識の形成、またSDGs）花緑委員会を中心に「花いっぱい運動」を展開し、豊かな心の育成に努め、委員会活動の活性化を図る。募金活動を通じた緑化の意識啓発。【総務部】 ②18歳から成人として認められることを鑑み、自ら選択し、その自己選択に対する責任を果たせる人間の育成を図る。社会に貢献する上で必要となる自主・自立の精神を養う。 【生徒指導部】 ③進路情報を詳細に提供する。地域や社会が求めている人材とは何かを考えさせる。 【進路指導部】 ④保健便りやカウンセリングルーム便りを発行し、生徒のみならず保護者とも連携を図る。 【保健部】	①花を植え、育てることで自らの学校・地域を満たす豊かさを体感できたか。ふるさと貢献活動、三田市緑化協会事業との連携ができたか。近隣施設への花プランター提供、花の育成ができたか。などをアンケートにより評価する。【総務部】 ②選挙管理委員会による講話を実施し、事後のアンケートなどにより評価する。【生徒指導部】 ③保護者・地域に対し進路情報などの提供が効果的にできたか。地域の求める青年のあり方を把握し、指導に活用できたか。を学校評価アンケートなどにより評価する。 【進路指導部】 ④学校評価アンケートなどにより評価する。（目標：70%以上）【保健部】	A B B A	【総務部】 ・春に加えて秋にも定植、地域の施設、保育園にもプランターを届けた。 ・生徒の参加により学校環境の整備、また花をいづくしむ行動によってふるさとへの愛着も深まっていると考えられる。募金活動も実施できた。環境への評価は高い。費用と継続性が重要課題である。 【生徒指導部】 ・三田市の選挙管理委員会に3年生向けの講演会実施の依頼をしていたが、参議院議員選挙と日程が重なったこともあり、実施できなかった。 【進路指導部】 ・保護者への情報提供が少なく、内容も概論的なものになった。保護者や地域が特に知りたい情報をあまり伝えられなかったので改善する。さらに、学年からの要望があれば、三者面談等に進路指導部の各専門部門担当者も出席し、情報提供や指導をおこなう。 【保健部】 ・「ほけん便り」や「カウンセリング通信」等を通じて知らせているが、生徒の認識が約66%に留まり、保護者においては約53%であった。さらなる教育相談体制の周知を図っていきたい。 ・キャンパスカウンセリングは充分活用されており、悩みを抱えて保健室に来室する生徒についても、話を聴き取るとともに、学年と連携しながら寄り添うことが出来ている

	⑤教育現場体験（実習）や就業体験、交流会を充実させ、連携幼稚園・保育園との関わりを深める。 地域活動協議会との連携を図り、地域連携講座を開講し自治会創作展への出展や学童保育などへの参加機会を増やす。【教育推進部】 ⑥教育課程説明会や文理選択に向けての三者面談を通して、学校、家庭の連携を密にする。タブレットのクラスルームを通して、保護者と日々の取り組みなど情報共有する。【第1学年】 ⑦定期的に進路通信や学年通信を発行することで、生徒・保護者・学校的意思疎通を図る。【第3学年】	⑤連携幼稚園・保育園の園長や教諭、保育士からの講評・感想及び地域活動協議会からの講評・感想により評価する。【教育推進部】 ⑥学校評価アンケートなどにより評価する。【第1学年】 ⑦学校評価アンケートなどにより評価する。【第3学年】	A B B	【教育推進部】 ・連携幼稚園・保育園との交流を増やし、また、地域自治会のサークルとの交流を通じて創作展への出品を行った。特に校内農園の収穫物の一部を、市役所を通じて「地域食堂」への寄付を行った。次年度以降も継続する。 【第1学年】 ・夏の3者面談で保護者・生徒に、類型選択について各担任から丁寧に説明することができた。その結果、多くの生徒・保護者が類型選択を理解し、選択できた。 【第3学年】 ・毎月学年より進路だよりを発行することで、情報提供を行った。3年間を通して、一度も学年懇談会等を実施できなかったことは残念であった。
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(4) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実	①創立30周年記念式典を実施し、記念誌を作成する。【総務部】 ②ICT活用の具体例の提示・レクチャー等の研修会（年5回）を実施する。【教務部】 ③地域に根差した学校を目指し、地域住民との連携を深め、地域から愛される学校づくりに取り組む。【生徒指導部】 ④学年が行う実態に応じた指導を重視しつつ、全体としての進路指導計画を完成させる。3年間を見通した進路指導計画を完成させる。【進路指導部】 ⑤配慮を要する生徒の共通理解を着実に行うとともに、教職員向けのカウンセリングマインド研修などを通じて、教職員の資質向上を図る。【保健部】 ⑥「教育入門」の指導方針と年間計画、「総合的な探究の時間（教職の探究）」の取組方針を、年度当初に教職員へ配布ならびに説明を行う。教育講話や創作活動の実施について、適宜職員向けに周知し共通理解を図る。【教育推進部】	①集団や伝統に目を向け、そこに自己を変革向上させる意識が見られたかなどをアンケートにより評価する。【総務部】 ②提示・レクチャー等の実施回数などにより評価する。【教務部】 ③ボランティア活動の充実を図り、地域清掃のみならず、駅前での募金活動などを行い、学校評価アンケートにより評価する。【生徒指導部】 ④進路指導計画が立てられ、有効に実施できているか。成果を校内で共有できたか。を学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】 ⑤学校評価アンケートなどにより評価する。（目標：70%以上）【保健部】 ⑥班別協議や課題研究発表会の見学、参加状況などにより評価する。【教育推進部】	A A B B A A	【総務部】 ・記念誌を作成、配布した。生徒の力を前面に出すことで式典開催と共に在校生の中に意義あるものとなった 【教務部】 ・外部講師による研修会を1回、職員会議等でICT活用事例の紹介を4回実施。日本教育工学協会学校情報化認定優良校認定を申請し認可された。 【生徒指導部】 ・募金買う堂は実施していないが、周辺清掃活動などを実施することができた。 【進路指導部】 ・年間を通した計画、また3年間を見通した計画も立てているが、実施への情報の共有や意思疎通が不十分だった。計画内容も関係部署と常に検討すべきだった。今後改善したい。 【保健部】 ・今年度より、毎月、保健安全・特別支援委員会を開き、配慮を要する生徒について共通理解を図ることが出来た。 ・教職員アンケートによると、約78%の先生方から評価していただいた。今後も、先生方からの要望や具体的な事例を集約し、キャンパスカウンセラーの先生方と共通理解を図っていきたい。 【教育推進部】 ・年度当初に取組みついでの冊子を配布できた。 ・外部講師や交流会の案内は都度できた。

	⑦毎週の学年会を通して、学年団による共通理解のもと、生徒への指導を行う。 タブレットを使用した授業や教育活動の充実に 向けて、定期的に検討会を実施する。 【第1学年】 ⑧西陵祭文化の部・体育の部、創立30周年記念行事等において、中心的な役割を担う。 部活動や委員会活動において中心的な役割を果たし、学校に活気を与える存在となるよう意識させる。【第2学年】 ⑨定期的に進路検討会を実施し、個々の生徒への進路指導を学年や進路指導部全体で行う。 毎週の学年会を通して、学年団による共通理解のもと、生徒への指導を行う。 【第3学年】	⑦学年会議の実施回数などにより評価する。 タブレットについてのアンケートを実施し評価する。 【第1学年】 ⑧生徒アンケートにより評価する。【第2学年】 ⑨進路検討会と学年会議の実施回数などにより評価する。【第3学年】	B B B	【第1学年】 ・授業、課題の配信、小テスト、遠隔授業などタブレットを上手に活用できた。各行事後のアンケートもタブレットで実施した。集計・分析が短時間ででき、生徒へのフィードバックに時間をかけることができた。 【第2学年】 ・西陵祭文化の部展示部門や体育の部において、2年生が総合優勝を果たし、大いに行事を盛り上げることができた。部活動を退部する生徒が出てきているのが残念である。 【第3学年】 ・毎週学年会を実施し、学年団による共通理解を図った。また、進路検討会により個々の生徒に合わせた進路指導ができるよう心掛けた。
--	---	---	----------------------------	--